



水を生かした観光イベント、たらい舟などを紹介する大垣観光協会の堀 富士夫副会長 ー 大垣市総合福祉会館

10都市集い、大垣でフォーラム開催

「水都」の魅力向上へ向け議論

川や湖などの水資源を観光に生かしている全国10都市が参加する「全国水都ネットワークフォーラム（大垣商工会議所、大垣市、大垣観光協会、全国水都ネットワーク主催）」が10月17日（金）、大垣市内で開かれ、揖斐川第二出張所も参加させて頂きました。

全国水都ネットワークは、日本の「水都」ブランドの向上を図ろうと、2012年12月、全国10都市（大阪、東京、新潟、名古屋、大垣、近江八幡、徳島、広島、松江、柳川）の民間団体やNPOなどを中心に発足。全国フォーラムは、これまで大阪や松江で開催し、4回目となる今回は市内外から約160名が参加し、意見交換を行いました。

最初に、国土交通省河川環境保全調整官の藤井政人^{ふじい まさと}さんが、「水辺の未来～日本にワクワクする水辺をつくりだす」と題して講演。藤井さんは「高度経済成長期に多くの水辺の多くが排水路と化し、街並みからも背を向けられている状況にある」と現状を説明し、「かつての魅力ある美しい水辺を再生するためには、単に『つくる』だけでなく、持続可能なものに『育てる』という視点が重要。市民や企業、行政が一体となり、水辺を生かした賑わいのあるまちづくりを進めるためには、行政も既成概念にとらわれず、新しい提案を受け入れる度量を持つことが必要」などと訴えました。



水辺の賑わい創出に向けたまちづくりについて語る藤井政人さん ー 岐阜新聞提供

次いで、「水辺ビジネス」をテーマとするパネルディスカッションが行われ、大垣の「たらい舟」、柳川の「お堀めぐり」、大阪の「水都大阪満喫チケット」などの水都各都市が手掛ける観光商品が紹介され、今後の更なる観光振興や水辺の活用によるまちづくりについて意見交換を行いました。また、今後の将来展望として、「水都の日」制定や全国都市の同時イベント開催など、新たな可能性について提案が出されました。